

# UNIRITA

## Magazine

06

2016

ユニリタマガジン

### 特集

どう舵を切る?  
待ったなしの企業競争力強化に  
直結するIT投資へのシフトチェンジ!

#### ユニリタ新ビジネスコラム

ビッグデータと機械学習、期待と誤解と使い道

#### 製品&サービス最新トピック

個人情報、マイナンバー、クレジットカード情報などを扱う  
業務の要求に応えたセキュアなデータ処理機能を追加

**Waha! Transformer**

ITベンチマーク診断のクラウドサービス  
～IT投資の視点から最適な事業戦略の立案を支援～  
「SLR® on Cloud」

#### システム管理者の会

システム管理者感謝の日イベント、いよいよ来月開催!

第10回

エンジニア魂 Engineers' Soul × デジタル変革  
世界を面白くする

#### UNIRITAユーザ会

第34回 UNIRITAユーザシンポジウム  
IN 福岡 開催決定!!

#### パートナー様ご紹介

株式会社クエスト

ユニリタ  
イメージキャラクター  
ホラン千秋



# どう舵を切る？

## 待ったなしの企業競争力強化に直結するIT投資へのシフトチェンジ！



現在、企業が保有する情報システム資産の数々は、作業時間短縮や省力化といった「コスト削減＝収益性向上」を通じてビジネス貢献を果たしています。各種の伝票処理を担う基幹業務、計数による実態把握などの管理業務、ドキュメント作成等のオフィス業務、組織間の業務迅速化のグループウェアや、各個人の時間有効活用に向けたPIM(Personal Information Manager)など多岐に渡ります。

このような分野へのIT投資は、どの企業でもひと通りなされた感があり、一定の効果を出しています。リニューアルのニーズはあるものの、プラットフォームの老朽化、ビジネスへの適合性が乖離してきた状況、もしくは更なる効果の期待が無い限りはそのまま継続・メンテナンスして使い続けるでしょう。つまり、経営層の意識には"投資済み"として映っています。

IT投資対象を優先・選択する際の意味決定も、「コスト削減＝収益性向上」から、「競争力強化への貢献度」に変化してきています。

### IT投資と要員のシフトチェンジ

このため経営層のITに対する期待は、これまでとは異なる視点で考えられています。攻めのITと呼ばれる企業競争力アップにつながるIT投資・システム構築です。平たく言えば「コスト削減も重要だが、売上増大につながるシステム化を進めて欲しい」といったところでしょう。IoTやスマートフォンでの市場対応など、ネットワークインフラと個人人のスマートデバイス活用の定着といった社会的変化と定着が、その重要性の認識を変化させていると言えます。経営層は、これらの変化への対応を進めていないと競争優位性を失うかもしれないとの危機感を感じているのではないのでしょうか。

実際、スマートフォンへの対応は深刻です。これまでのE-Mailを用いた顧客に対するアプローチ(コンテンツのプッシュやコミュニケーション)は、いまや完全に機能しているとは言えません。若い世代は、LINEやFacebookなどのSNSや無料のネイティブアプリを利用しているため、従来のメールマガジンは全く届いていないと言えるでしょう("迷惑メールフォルダ"に仕分けされるだけ)。今やスマートフォン・ネイティブアプリを介したコンタクトが不可欠な状況です。

### シフトチェンジに際して考えるべきこと

IT部門やIT子会社は、このような状況下での経営層の期待に応じ、IT投資と要員のシフトチェンジが必要になります。"攻めのIT"による企業競争力アップにつながる戦略的な分野への、人材を中心としたリソースシフトを進めるべきです。しかし、既存の情報システム資産とインフラの運用・保守に多くの人材が割かれており、新しいITアーキテクチャの準備はなかなか進まないのが実情といった声を聞きます。

以下が本音でないでしょうか？

#### ■新規IT投資の領域に人をシフトしたいが.....

- ・日々の業務をこなすことで手一杯である
- ・担当者がいないと運用ができない
- ・障害復旧までに時間がかかる

#### ■シフトチェンジしようと言っても.....

- ・新しい技術のスキルがない
- ・モチベーション/インセンティブがない

#### ■IT部門やIT子会社の立場から言うと.....

- ・安定的な収益源を失いたくない
- ・優秀な人材は外販に向けた



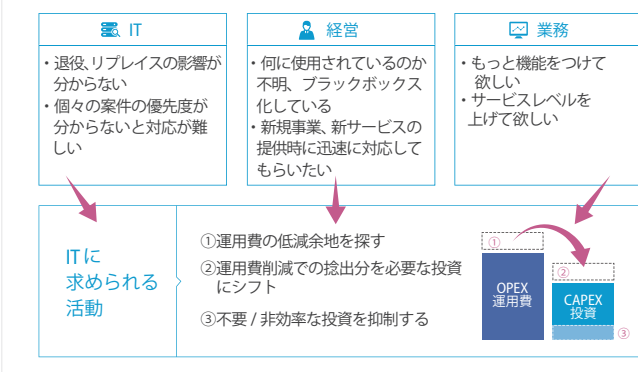
結果として、経営層のITに対する期待に対して、十分応えられていないのではないのでしょうか？

### 集中と選択

既存の情報システムの運用・保守に割かれがちな人材をシフトして、目指すリソース配備の姿を実現しましょう。現状の把握と課題の整理を通して、目指す姿に向けてのアプローチと舵取りが重要です。

現状の把握とは、既存の情報システム資産の数々がどのような位置付けでビジネス貢献しているのか、開発・維持コストはどうかの評価軸で、ITポートフォリオモデルを活用し、可視化してみることです(ユニリタはITポートフォリオによる可視化ツール「Alfabet」と、技術支援サービスを提供しています)。

「運用費の低減と投資の最適化」の継続的なバランスを図ることが求められています



課題の整理は以下となります。

- ① 先ずは捨てる  
システムをやめた場合はどうか？
- ② 選ぶ  
既存・新規にかかわらずどのシステムに集中すべきかを選択する
- ③ 寄せる  
自社内や本社機構は勿論、国内外の生産・販売各拠点およびグループ子会社、海外現地法人含めて共通化できないか？  
ITや業務サービス提供する組織を編成、ここからのマルチテナント形式にて運営する
- ④ 開発・維持コストを下げる  
自動化・省力化・セルフ化や、中長期スパンで考えた低コスト化への移行を検討する
- ⑤ 可視化する  
具体的な対応についてのまとめを、情報システムありきでなくビジネスプロセスの面から可視化し、新しいITアーキテクチャにより変化するまたは変革できる姿を盛り込んで、ToBeモデルをまとめる(ユニリタは、業務履行データからAsIsモデルを自動生成→ビジネスプロセス可視化→ToBeモデルを定義するツール「ARIS」と、技術支援サービスを提供しています)。

## 目指す姿に向けたアプローチ

これまでのポイントをふまえて、目指す姿に向けたアプローチのひとつをご紹介します。

### 【1】標準的業務モデルの適用

#### ・業務パッケージ（ERP等）の採用、導入

システムの維持コストが割かれるのは、基幹業務および管理業務である場合が多いため、これをパッケージシステムに切り替えることは有効です。業務によっては、クラウドサービスで提供されていますので、こちらへの移行は人材のみならず、インフラの運用・保守低減の面でも効果が期待できます。

ある意味、オンプレミス型のERPパッケージ導入が流行した際の中長期スパンでのコスト削減策と同じ考え方です。

#### ・クラウドサービスの採用、導入

組織間の業務迅速化のグループウェアや、各個人の時間有効活用に向けたPIMは、クラウドサービスで提供されているシステムを積極的に取り入れる事が有効です。

#### ・オンプレミスとクラウドサービスをハイブリッドに活用

業務のFit&Gapにより複数のオンプレミスとクラウドサービスを並行して利用する場面が増えていきます。この際、各システムをよりシームレスに連携する事は大変重要です。特に重要なのは、SSO (Single Sign On)による、id/password管理でしょう。なぜなら各システムによってid/passwordポリシーが異なるため、管理が煩雑になるからです。

一例を挙げるならば、設定方法は"8ケタ以上英数混在で英大文字1文字以上使用"、password有効期間は"30日間"、変更時のルールとして"2.3世代前までの同一パスワードは利用できない"といったもので、そのままではユーザ展開・運用に大きな支障をきたします。(ユニリタは、WebシステムのインテグレーションとSSOとして「infoScoop SSO」を提供しています)。

### 【2】現行実施内容の効率化、省力化

#### ・改善余地の効率化、省力化

情報システムありきでなくビジネスプロセス可視化からのスタンスであれば、改善の余地が残されている場合があります。

#### ・IT部門やIT子会社業務の運用のレス化

自動化やセルフ化により、仕事そのものを削減する事が有効です(ユニリタは、ITサービス自体の可視化を通じての自動化・省力化に向けたフレームワークとして「ASMO」を提供しています)。

### 【3】新しいITアーキテクチャ=次世代システム構築技法

・基盤の再構築で、サイロ化されたシステムのオーバーヘッドの極小化  
システム要件や構築してきた経緯によりサイロ化されたシステムを、機能単位で再定義する事で、稼動するモジュールの部品化を進め、維持コストの対象となる開発成果物を絞れる構成へ移行する事が有効です。現状稼動するミドルウェアやアーキテクチャを寄せて行ける点でも効果が期待できます。

#### ・さまざまなUI(User Interface)への即応

Webインターフェースとスマートフォン・ネイティブアプリへの対応が必要となっています。デバイスの解像度によってのWebインターフェースと、ハンディフォンからウオッチ型や音声認識型のデバイスといったスマートフォンアプリでもそのデバイス形態によってのバリエーションが生じてきます。システムの部品化(API提供)を通して、

自社製・他社製・公開型部品をサービスとして活用する事で、より便利な機能をマッシュアップにて提供し、そのシステム構築スピードの向上も図ることが可能です。

同時に、活用するサービスをリポジトリ化により登録・管理しマネジメントする事で、開発に携わる要員間での情報と開発ノウハウの共有を実現できます。

今後もハードウェア技術革新によるさまざまなUIの登場は容易に想像できますが、これらへの迅速なシステム構築対応も実現できます(ユニリタは、新しいITアーキテクチャ対応と部品化・サービスリポジトリ管理の“APIマネジメント” 実現ツール「webMethods」と、技術支援サービスを提供しています)。

"攻めのIT"と呼ばれる企業競争力アップにつながる最適で新しいITアーキテクチャの実現に向けてのシフトチェンジは待たなしです。ITポートフォリオやビジネスプロセスの可視化などはあくまで前段階です。不可避なものです。時間をかけていられる悠長はありません。

ユニリタは、これらの課題を解決するソリューションを提供し、お客様のIT投資に効果的なシフトチェンジをお手伝いします。

## 【ソリューション紹介】

**ALFABET**  
BY SOFTWARE AG  
IT ポートフォリオ管理

部門ごとにバラバラだったシステムに関する情報をAlfabetに集約することで、複数のプロジェクトやIT資産を多面的・俯瞰的に見ることが可能になり、IT投資の最適化が実現されます。

**ARIS**  
BY SOFTWARE AG  
ビジネスプロセス  
マネジメント

企業内の戦略・プロセス・ITの整合性を取りながら、継続的な改善を進めるには、企業資産をより効果的に可視化、分析、共有する必要があります。その実現のための方法論（メソッド）と基盤（機能群）を提供します。

**infoScoop  
SSO**  
シングルサインオン

infoScoop SSOは、シングルサインオンと大規模利用で実績のある企業情報ポータル infoScoopを融合させることにより、ガバナンスを強化しながらワークスタイル変革を実現する、統合ソリューションです。

**ASMO**  
ITサービスマネジメント  
コンサルティング

ITサービスの価値を拡大するには、それをドライブするエンジンが必要です。サービスマネジメントオフィス (SMO) は、その役割を担う理想的な組織です。ASMOフレームワークは、全体最適の視点からサービスレベルをモニタリングし、サービス価値をさらに高めるヒントを継続的に提供します。

**WEBMETHODS**  
BY SOFTWARE AG  
エンタープライズ  
サービスバス

webMethods は、あらゆるシステムとアプリケーションとの接続を、オンプレミスやクラウドの環境に依存することなく、少ないリスクと冗長性で実現、新しい技術のいち早い導入を可能にします。

### 担当者 紹介

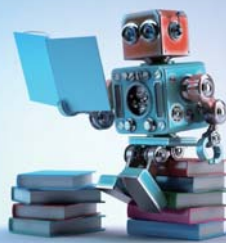


#### 営業本部 東日本営業二部 コンサルタント 奥村 誠悟

私は大学卒業後、新卒で一部上場製造業に就職し、経理部門、IT部門、グローバルビジネス管理部門などの業務を経て、現在に至るキャリアを持っています。この経験を活かして、ビジネスサイドにおける視点からのIT活用や課題解決に向けたさまざまな分野の情報発信を心掛けて参りました。今後も、お客様の実業務に役立つユニリタのソリューションをお届け致します。



# ビッグデータと機械学習、期待と誤解と使い道



Google AlphaGo が 囲碁名人を破る、2020 年の自動運転の実用化など、AI のめまぐるしい進歩と未来に期待が高まっています。また、クラウド上での Machine Learning (機械学習) プラットフォームやオープンソースなど、機械学習に対する敷居が低くなり、各企業でも業務への適用などを試行錯誤しているものと思います。

しかしながら、ネット上に毎日のように出てくるケーススタディに、一昔前のビッグデータ事例と同様の既視感を覚えてしまいます。すなわち、「自社の業務にどのように適用できるのかよくわからない」というのが現実ではないでしょうか。今回は、現時点でのエンタープライズ業務における、機械学習の現実と、その使い道について考察します。

## 担当者紹介

野村 剛一

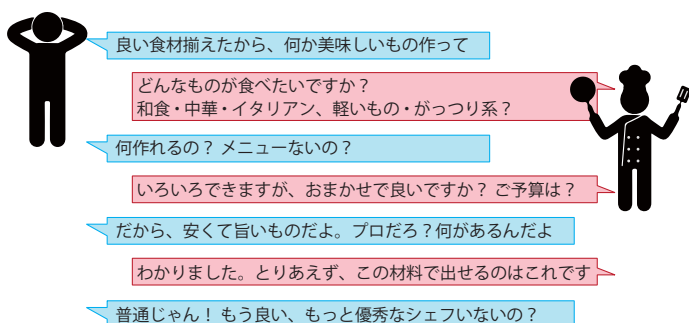
執行役員  
新ビジネス本部  
データアナリティクスグループ長



「リアルタイム」が社会を変える。  
ITとデータでゲーム・チェンジを楽しみましょう。

## データが先か、目的が先か

「データが先か、目的が先か」以前から議論されているテーマです。「このデータを」「何かに」活用したい、という欲求に対して、自動運転を初めとする「AI」を売り物にして実際は機械学習という道具を持ってくる輩が多いことが問題をややこしくしています。よくデータを素材、機械学習のような道具を最新調理機器、活用事例をレシピ、成果を料理として例えられるケースがあります。



AIについても、これに似たまったく不毛な会話を行っていないでしょうか。AI は機械学習を含む総合的な技術の集大成であり、道具だけでは成り立たません。しかも万能なAIなど(今のところ)存在するはずもなく、必ず何らかの目的の下にモデルが定義されています。

自動運転は、目的地に行くためにルート設定を行い(これは既にカーナビでもお馴染み)、センサーで取得した情報から直近の行動計画を立て実際に車を動かします。物理的に車が動くと、再度センサーで集められた情報から計画との誤差を計算し、計画の修正を行います。このPDCAサイクルをコンマ何秒の間に行うことにより車を制御しており、機械学習はその一部を担っているに過ぎません。

## 機械学習・・・やってみたら・・・

機械学習ができること、例えば話題の深層学習(Deep Learning) は以下のように定義されています。

「データを反復的に学習し、そこに潜むパターンを見つけ出すこと、そして学習した結果を新たなデータに当てはめることでパターンにしたがって予測する」

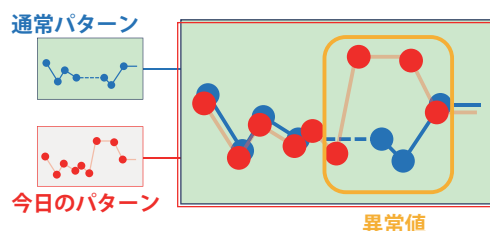
現在の企業内データ活用分野で、少し機械学習をかじった人達の間では、(少々乱暴な言い方をすれば)パターンマッチをある程

度自動的にやってくれる便利なもの、程度の認識でしかありません。プロ棋士がAIに勝利するのが難しい時代になってしまいましたが、将棋には過去の棋士達が作り上げた棋譜というものがあって、簡単に言えば、盤面の状況(コマの配置)を理解して、棋譜を当て込んでいけば、よほど変な手を打たない限り負けることはありません。AIと対戦する棋士達は気の毒なことに、AIの脳(アルゴリズム)と戦っているわけではなく、過去の人類の知見と戦っているのです。

機械学習は既知のパターンを再生成して統計的な合致度を測るものです。データマイニングと異なり(今のところ)未知のパターンを探り当てるものではありません。それ故に、現在のビジネスにおける機械学習の適用は、過去のパターンを利用できる分野が多く、時系列に沿って周期性が認められる機械の故障予測や、医療診断、画像認識、自動応答などあくまで人間のアシスタント的な事への利用がほとんどです。

パターンに合致する過去のケースを自動検索して当てはめる。もしくは、過去のパターンと異なるふるまいを外れ値(異常値)とみなして警告するという仕掛けです。(図1参照)

図1: パターン比較による異常値の発見



リコメンデーションやスパム検知等の不正検知、メールの自動振り分け等もこの類ですが、ここで精度の問題が出てきます。

これらの分野では、「風が吹けば桶屋が儲かる」的なノウハウをルール化した方が精度も高く「納得性」があるのですが、機械学習を利用し、かつ、モデルまかせで感度を上げてしまうと、誤検知が多くなり、現場がこれに振り回されて疲弊してしまい使われなくなるケースが多く見られます。「オオカミ少年」の大量生産です。

## オオカミ少年は悪か？

機械学習を先行的に試してみた企業では、このオオカミ少年問題に直面しており、なんとかこの「嘘つき」を更正させよう(精度をあげよう)と躍起になっています。これはこれで重要な取り組みですが、「オオカミ少年」自体を否定してはいけなく、と考えます。今まで誰

も気づかなかった事を、この少年だけが発見できるのですから。

東大の地球物理学者が「地震予知は無理」と警告しています。実際に地震予知に失敗したイタリアの科学者が裁判にかけられたり、結局起こらなかった地震情報のために観光客が激減するといったネガティブな面があるのも事実です。60%の予測と、100%の予言、どちらを信じるか。企業においては自明の理です。60%の予測精度を80%に上げる努力は正しいのですが、これを100%にするには無理があります。

しかしながら、今までわからなかったことが8割の確率で事前に知ることができるになれば、何らかの新しい準備ができるはず、要は考え次第なのです。

企業におけるデータ分析業務において、事実を知り、それを掘り下げ、原因を探り、対策する、ここまでは従来のBI(ビジネスインテリジェンス)を用いたPDCAサイクルで説明ができます。機械学習はここに予測と自動化(リアルタイムの対応)をもたらします。

機械学習は万能ではありません。明らかにBIでわかること・ルールベースで対応できることは、規則・規制やそれに沿ったプロセスで対応すれば良く、検索条件が明確に定義できないことにこそ機械学習を適用するべきです。ここで成果を上げるためには、予測精度を上げるだけではなく、それを運用する仕組みと、これまで利用しなかった(もしくは存在しなかった)データの活用が必要になります。すなわち、データと運用を持っているIT部門が業務部門のビジネスプロセスを変えるKEY(または、ボトルネック)になってきます。他人事ではないのです。

## データが先か、目的が先か。 成果が先か、予算が先か。 IT部門のパラダイムチェンジを

予測の精度を上げようと思えば、規則性のある大量のデータに加えて、データの多様性が重要になります。

例えば、商品の需要予測で考えてみましょう。従来単一企業内で行われている需要予測はクラスタリングで類似性のある商品を探しだし、その販売実績を回帰分析にかけて予測する、という当たらない予測を繰り返してきました。実際の世界ではモノが売れるのは、商品特性だけではなく、いろいろな変動要素があります。地域性や商圈、天気、お店の棚割りだったり、地域イベントなどなど、これらの要素がないと、正しい予測などできるわけがありません。(図2参照)

既に市場に流通している商品は、実売(セルアウト)データを流通業界より買取り、出荷(セルイン)データとの差分で流通在庫を把握し、デマンド側の販売計画とメーカーの生産・在庫計画、サプライヤとの仕入計画を連動させ、ITを用いてそのサイクルを短くすることによって最適化し、その精度をあげています。(図3参照)

しかしながら、まったくの新商品やマーケット/流通イベントに即した需要予測の現状は前述のとおりです。メーカーにはマーケットイベントデータはありませんが、流通業界には存在します。システム上一見ひも付けが難しいこれらのデータを用いて予測をすることは正に機械学習の技術なくしては実現困難です。

このケースは一例ですが、顧客エンゲージメントを高め、市場の行動を予測し、先手先手の施策を打つには、現場のオペレーションを磨き上げるだけでなく、リアルタイムでデータドリブンな業務プロセスを確立していくことが、これからの企業に求められます。

そのために「多様な=今までにない」データを蓄積して、多面的な分析により予測精度をあげ、時間をかけて自社モデルを作り育てていくことが重要になります。「やり方」はすぐに真似できますが、データとモデルの精度をあげる(学習する)には相応の時間がかかります。失敗しても良いので早く着手することが肝要です。

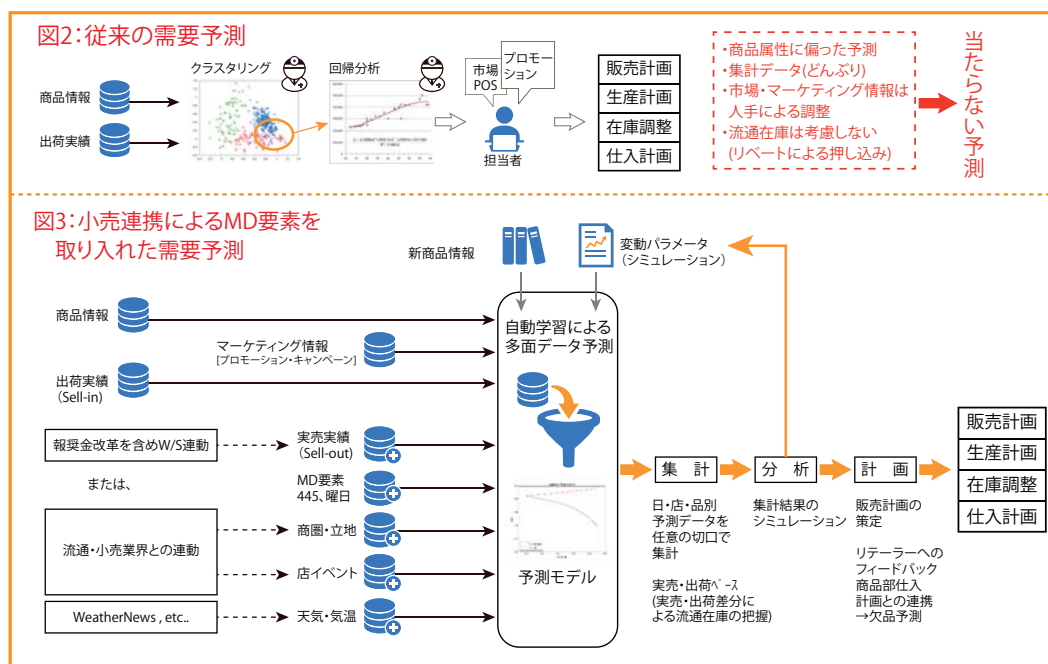
「失敗しても良いので・・・」は、今まで効率化と統制を是としてきたIT部門には一見難しい考え方も知れません。しかしながら、ビジネスにおけるIT活用の目的はコンプライアンスに加えて顧客との直接対話を行うマーケティング利用にシフトしつつあります。

そのきっかけとなる技術のひとつが機械学習であり、今後このテクノロジーが実用化(プロダクション化)に至り、企業で当たり前のように活用され、社会基盤のひとつ(エコシステム)となる日はそう遠くはありません。

今や企業の大きな資産となりつつあるデータ、これを内輪で腐らせるのではなく、外部のデータやビジネス連携を触媒として活用し、自社のビジネスを変革していくためには、データとテクノロジーを持つIT部門が中心になるべきだと考えるのは私だけでしょうか。

ユニリタでは「it's YOUR turn!」を合言葉に、IT部門がドライバーとなり、企業のデジタル化推進に向けた移行サービスや実証実験のご提案を行っています。

是非、これらのサービスを利用され、ご自身でその楽しさ(難しさ?)と可能性を実感してみてください。



ブログのお知らせ

ユニリタでは、データ分析に関するブログを公開しています。是非、一度ご覧ください。

「アナリティクスびより」  
<http://bitbspdata.blogspot.jp>

## 個人情報、マイナンバー、クレジットカード情報などを扱う 業務の要求に応えたセキュアなデータ処理機能を追加

「Waha! Transformer」は、業務で利用される様々な形式のデータを必要な形式にノンプログラミングで変換する国産 No.1<sup>(※)</sup> ETL ツールです。現在まで 1,500 以上のライセンスを出荷し、お客様にご愛顧いただいています。

**Waha!**  
**Transformer V5.1**

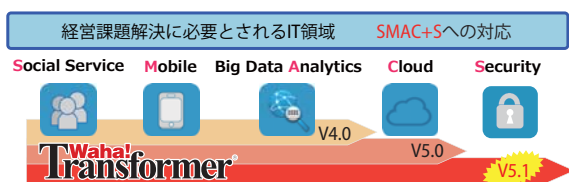
※2015 年富士キメラ総研調べ

### 常に進化し続ける「Waha! Transformer」

「Waha! Transformer」は、1999 年の販売開始以来、お客様のニーズや IT の動向と共に、経営課題解決に必要とされる SMAC+S (Social, Mobile, Big Data Analytics, Cloud, Security) の対応を進めてきました。

V3.0 ではグローバル化に対応し、英語、中国語環境でも利用可能に。V4.0 では、ビッグデータのニーズに沿った処理の高速化を実施。V5.0 では、クラウドのニーズに沿った AWS 制御機能などの他、同様の製品では唯一、直接プリンタへフォームオーバーレイ印刷できるレポートオプションを追加。これらの機能に加えて、お客様からご要望いただいた機能も各バージョンで実装してきました。

そして、V5.1 では、セキュリティを強化。他社 ETL には無いセキュアなデータ処理機能を追加し、個人情報やマイナンバー、クレジットカード情報を扱う業務でも安心してご利用いただけます。



### 「Waha! Transformer V5.1」での強化ポイント

#### データの暗号化・複合化

コラム単位にデータを暗号化することで、安全にデータを扱うように加工できます。

- ・別途暗号キーを共有することで、暗号化したデータを引き渡し先で複合化
- ・PCI-DSS で必須の AES-128、TDES-3 倍長鍵、RSA-2048 などの暗号化方式をサポート

#### データの置き換え

複数データの関係性を維持したままデータを置き換えます。

- ・あらかじめ指定した複数のパターンヘランダムに置き換え
- ・ワンウェイハッシュを使用して別の値に変換

| 顧客番号  | 苗字 | 苗字を置き換え | 顧客番号  | 苗字 |
|-------|----|---------|-------|----|
| 16001 | 斉藤 | →       | 16001 | 田中 |
| 16002 | 山田 |         | 16002 | 渡辺 |
| 16003 | 宮本 |         | 16003 | 伊藤 |

#### セキュアなファイル転送に対応

オンプレミスとクラウドのデータ交換などを安全に行えます。

- ・SFTP (SSH File Transfer Protocol) や FTPS (File Transfer Protocol over SSL/TLS) をサポート

#### データのマスキング

データをマスクして別の値に置き換えます。

- ・文字列の一部を指定文字で置換
- ・数値や日付を乱数で別の値に変更

| ... | カード番号               | メールアドレス              | 生年月日         | ... |
|-----|---------------------|----------------------|--------------|-----|
| ... | 1234-5678-9012-3456 | user01@unirita.co.jp | 1980/12/25   | ... |
|     | カード番号の上位12桁をマスク     | メールアドレスのローカル部をマスク    | 生年月日をランダムに変換 |     |
| ... | カード番号               | メールアドレス              | 生年月日         | ... |
| ... | ****_****_****_3456 | *****@unirita.co.jp  | 1960/8/3     | ... |

セキュアなデータ処理機能を搭載した  
「Waha! Transformer V5.1」は、  
2016 年 6 月に出荷予定です。

## ITベンチマーク診断のクラウドサービス「SLR® on Cloud」 ～ IT 投資の視点から最適な事業戦略の立案を支援～

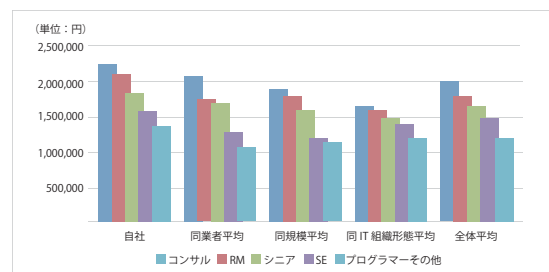
株式会社スクウェアの IT 可視化ベンチマークサービス「SLR®」は、IT 業務のコスト、品質および成熟度レベルを定量化し、他社と比較して自社の IT マネジメントレベルを評価、診断を国内企業 100 社以上に提供されています。

この度、スクウェアとユニリタは、インターネットへのアクセス環境があれば、自社の IT 投資に関するデータを入力するだけで同業種、同規模企業との IT 投資比較を行うことができる、業界初の IT 投資ベンチマーク診断のクラウドサービスをリリースしました。このサービスを利用することで、自社の IT 投資の妥当性に関する比較検討が可能になると共に、IT 投資のパターンシミュレーションをオンラインで何度でも行うことが可能となります。これにより IT 投資の視点からの最適な事業戦略の構築を行うことができます。

### SLR® on Cloud が可視化する、IT ベンチマーク診断

- ★戦略的 IT 支出 vs 必須 IT 支出、投資 vs 維持費、支出構造、SE 調達単価などの IT コスト比較
- ★自社単体、国内連結、グローバル連結の各範囲で IT 支出の妥当性を可視化
- ★業種平均、IT 運営組織平均、規模平均などと客観的な比較分析
- ★システム開発案件単位のコスト妥当性の検証
- ★コンサルタントによる公式評価コメントおよび改善提言の提供

例：契約人員単価のベンチマーク





## 世界を面白くする

## システム管理者感謝の日イベント、いよいよ来月開催！

開催まで、  
あと1ヵ月！会場：大手町日経ホール  
参加無料

イベント開催まであと1ヶ月と迫ってまいりました。

イベント当日は、今回のテーマである「デジタル変革（DX）」の総論を学べる基調講演と、実践している企業の活動を紹介するセッションで皆さまをお迎えします。また、各社からのVRキット、ロボットキット、3Dプリンターで作られた家電など、「モノ」に触れられる体験ブースを調整中です。こちらの情報は、イベント特設サイトで随時ご案内します。事前のお申し込みとあわせてご確認ください。

イベントの申し込みは、当会のポータルサイトで受け付けています。お申し込みいただいた方には、イベント当日にもれなくノベルティをプレゼントします。

皆さまのご来場をお待ちしています。

イベント特設サイト⇒ <http://www.sysadmingroup.jp/kakikosyu2016/>

## ■ 基調講演者 生熊 清司 氏 プロフィール

外資系コンピュータベンダーを経て、カナダ COGNOS 社の日本法人の立ち上げに参画。1994 年より日本オラクル株式会社にて、RDBMS、データウェアハウス関連製品のマーケティングを担当した後、コーポレート・マーケティング部門の責任者、アナリスト・リレーション部門の日本代表などを歴任。2006 年より現職。

現在は、データ管理と活用に関する製品分野を中心にビッグデータや AI などにも担当し、IT ベンダーのマーケティング戦略立案やユーザー企業の製品活用などのコンサルティングに数多く携わっている。IT 専門雑誌への寄稿、セミナーなどでの講演多数。

株式会社アイ・ティ・アール  
プリンシパル・アナリスト  
生熊 清司 氏

## ● システム部門の活動をご紹介します

他社のシステム部門の活動に興味はありませんか？

システム管理者の会では、システム部門の活動やレポートを取りまとめ、ご紹介していきます。初回は、「ITIL を活用した組織風土改革・IT サービス品質向上の取り組み」を予定しています。ITIL 準拠のサービスマネジメントツール導入だけでは効果が得られなかったインシデント管理精度を、意識改革にチャレンジして向上させた事例です。

UNIRITA マガジンでご紹介する皆さまの活動レポートやインタビューを募集します。自社の活動を広めたいという方は是非、ご連絡ください。



- 詳しくは、「システム管理者の会ポータルサイト」をご覧ください。

システム管理者の会

検索

## UNIRITA ユーザ会

第34回 UNIRITA ユーザシンポジウム  
IN 福岡 開催決定!!

今年度もユーザ会活動の一年間の総決算として、UNIRITA ユーザシンポジウムを3月に開催します。

平成17年から12年にわたり、大津にて開催してまいりましたユーザシンポジウムですが、今般の、熊本県・大分県を中心とした地震災害が九州地方へ与えた影響を考え、UNIRITA ユーザ会としても、何らかの形で復興応援の一助にという想いを込めて、九州の地での開催を決定しました。

会の名称も本年4月1日からUNIRITA ユーザ会へと変わり、本年度は、その第1回目のシンポジウムとなります。気持ちも新たに、より一層ユーザのための会となるべくチャレンジし、本ユーザ会を発展させて参りたいと存じますので、皆さまのご参加をお待ちしております。

UNIRITA ユーザ会会長  
坪井 祐司  
(株式会社 LIXIL)

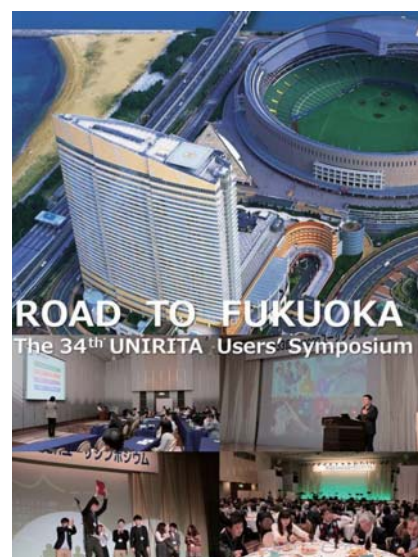
## 第34回 UNIRITA ユーザシンポジウム IN 福岡 開催概要

開催日：平成29年3月2日（木）～4日（土）

会場：ヒルトン福岡シーホーク 福岡県福岡市中央区地行浜 2-2-3

内容：第44回定時総会 / ユーザ事例発表 / ユニリタプレゼンテーション / 講演会 / マネジメントセッション / 研究発表 / 表彰パーティー ほか

参加費用・プログラム・お申し込み方法等、詳細は11月頃のご案内となります。



- 詳しくは、「UNIRITA ユーザ会ホームページ」をご覧ください。

UNIRITA ユーザ会

検索

## セキュリティ監視センター（SOC）業務をフルアウトソースし、サイバー攻撃を迎え撃つ

当社（クエスト）は、お客様とともにITの価値向上を実現し、お客様の信頼を得ることを追求していきます。そのために、コンサルティングからシステムの構築、運用・保守までの「システムライフサイクル」全体を捉えたワンストップサービスの提供を展開しています。今回はセキュリティ製品の導入から運用・監視までをワンストップで実現するサービス「Q-MSS」をご紹介します。

### 増加するサイバー攻撃

標的型攻撃や不正アクセスなどのサイバー攻撃による内部情報の漏洩事故は、年々増加の一途を辿っています。更にマイナンバーをはじめとする個人情報に関する制度改正や施行に伴い、サイバーセキュリティ対策は業種や業態・事業規模を問わず、全ての事業者において重要視される経営課題の1つとなっています。

経済産業省と独立行政法人情報処理推進機構(IPA)は2015年12月に「サイバーセキュリティ経営ガイドラインVer.1.0」を策定、その中の重要な対策の大項目として、以下の4点を挙げています。

- ①リーダーシップの表明と対策の構築
- ②サイバーセキュリティリスク管理の枠組みの決定
- ③リスクを踏まえた攻撃を防ぐための事前対策
- ④サイバー攻撃を受けた場合に備えた準備

特に④は「情報収集の重要性」について注意喚起した内容となっており、「事故対応を適切に実施するために常に情報収集を行い、これを関係者と共有する事で事故による極小化を目指す」ことを謳っています。

### セキュリティに関するノウハウの結晶「Q-MSS」

当社は、これまでのプライベートSOC（セキュリティ監視センター）の構築や運用で培ってきたノウハウを基に、高品質でありながら低価格なマネージドセキュリティサービス「Q-MSS」を立ち上げました。

「Q-MSS」は、独自のセキュリティ監視センター「Q-SOC」を準備、専門のセキュリティアナリストによるセキュリティログの監視分析のサービスを提供します。

また、パロアルトネットワーク社製品をはじめとするセキュリティ機器についてコンサルティング、導入、運用、セキュリティログを活用した監視分析をワンストップで提供します。

「Q-MSS」では、監視基盤にSIEM (Security Information and Event Management) を活用する事で、従来のSOCでは困難なサイバー攻

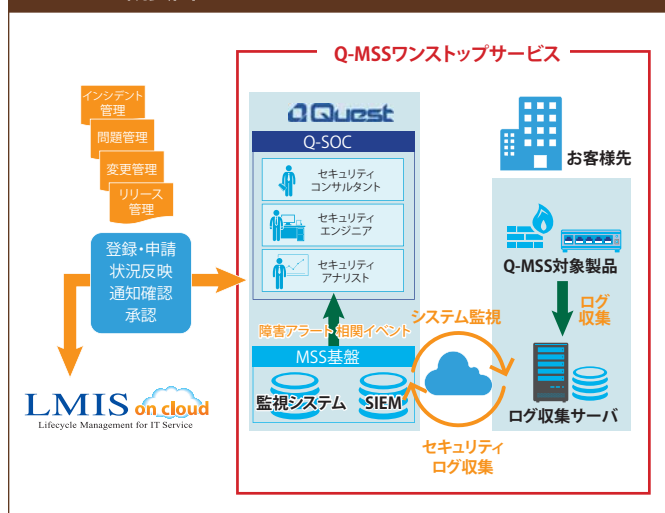
撃の予兆を検知する事や、万が一にも攻撃者の侵入を許してしまった時の影響範囲の特定を可能とする様な監視分析を行い、実害の発生を未然に防ぐための施策をお客様に提案します。

### 「Q-SOC」とユニリタの「LMIS on cloud」による統合的なSOC運用の実現

「Q-SOC」では、セキュリティ機器より得られる（セキュリティ）ログやSIEMによる監視分析により判定したインシデントを「LMIS on cloud」に登録・管理する事で、正確かつスピーディに「Q-SOC」内部の情報共有を行うとともに、SOC運用に不可欠なITILの重要な構成要素である問題管理、変更管理、リリース管理についても、「LMIS on cloud」をフル活用することで、統合的に管理したSOC運用を実現しています。

当社は、今後も「Q-SOC」の管理面における業務効率化を図る上で「LMIS on cloud」を更に活用すると共に、ノウハウを蓄積、テンプレート化を図る事で、プライベートSOC構築等のインテグレーション案件にも展開していきます。

### システム概要図



## 株式会社ユニリタ [www.unirita.co.jp](http://www.unirita.co.jp)



|           |           |                                   |                  |
|-----------|-----------|-----------------------------------|------------------|
| 本 社       | 〒108-6029 | 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟         | TEL 03-5463-6383 |
| 大 阪 事 業 所 | 〒541-0059 | 大阪市中央区博労町3-6-1 御堂筋エスジービル          | TEL 06-6245-4595 |
| 名古屋事業所    | 〒451-0045 | 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) | TEL 052-561-6808 |
| 福岡事業所     | 〒812-0013 | 福岡市博多区博多駅東2-2-2 博多東ハニービル          | TEL 092-437-3200 |

### ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研  
 備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ  
 株式会社ユニートランド